

飯田市歴史研究所第3期実績の自己点検・内部評価

平成28年8月2日

飯田市歴史研究所

飯田市歴史研究所は、2002（平成14）年10月に準備室が開設され、2003（平成15）年12月正式に発足しました。画期的・先駆的な文化事業を展開するため、第1期となる中期的計画では「地域史研究事業の基本的理念」を据え、恒久的・継続的に地域の歴史や文化を調査研究し、その成果を現在および未来の市民に還元する体制の確立に努めました。2008（平成20）年3月に第1期5か年の事業活動実績を取りまとめ、自己点検・内部評価とともに第三者による外部評価をうけました。2008（平成20）年3月には、2008年度から2012（平成24）年度に至る第2期中期計画を策定し、基礎研究・基礎共同研究、市誌編さん事業や出版活動、アーカイブズの保存・活用、市民・研究者・研究機関との連携、地域史研究事業の統合化などの重点目標を掲げました。そして、2012（平成24）年7月に自己点検・内部評価を行い、外部評価をうけました。

2013（平成25）年4月、第2期中期計画の成果と課題を踏まえ、2013年度から2017（平成29）年度までの第3期中期計画を発表しました。ここでは、歴史研究所は「市民文化の向上発展と活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ための活動を前進させていく必要があることを確認しました。そのうえで、第1期中期計画以来の基本方針を堅持しつつ、重点目標として、①「地域遺産」の再発見、②「地域市民」との連携強化、③地域アーカイブズ事業の充実、の3点を掲げ、その実現に取り組んできました。

以下では、第3期中期計画で示した3つの項目（基本的な方向性と重点目標、基本的事業活動、歴史研究所の体制整備）に沿って、自己点検・内部評価を行います。なお、第3期中期計画は2017年度までの予定でしたが、新しい飯田市教育振興基本計画が今年度に策定されること、来年度に歴史研究所の移転が予定されていることを踏まえ、1年前倒しで2016年度に計画を終えることになりました。そのため、第3期中期計画の目標・課題の多くは第4期中期計画へ持ち越されることとなります。

以下の文章は、第3期中期計画の文章を引用した【計画】を最初に置き、その後に【成果】と【課題】を述べるという構成になっています。

I 基本的な方向性と重点目標

【計画】

「リニア2027年開通」が現実化する中で、これからの飯田・下伊那は今までにない規模での変貌が想定されます。一方で、山里部分のみならず中心市街地でも進行する過疎化、高齢化の中で、豊かではかけがえのない歴史や文化を刻んできた多くの集落や地区が、その存立基盤を根底から脅かされています。こうした中で、歴史研究所は「市民文化の向上発展と活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ための活動を更に進めていく必要があります。

第3期中期計画においては、「飯田市誌編さん事業 今後の方向（中期的計画）について」（2001年8月30日）に記される当初の基本方針を堅持し、さらに、2003年～2007年度の第1期中期計画、2008年～2012年度の第2期中期計画における成果や課題をふまえた3つの重点目標を設定し、諸活動に取り組めます。

- 1 「地域遺産」(※)の再発見
- 2 「地域市民」(※)との連携強化
- 3 地域アーカイブズ事業の充実

- ※ 「地域遺産」とは、飯田・下伊那における地域の歴史や文化的活動から生み出され、後世に残すべきと考えられるものを指します。
- ※ 「地域市民」とは、飯田市における実体ある地域の枠組みとして自治区域（概ね現在の小学校区ととらえる。）を「単位地域」と考え、歴史研究所が行う歴史資料の保存・管理、歴史資料を素材とした調査研究、地域史叙述など、単位地域の枠を前提として段階的に進めようという考え方の中で、そこに生きる市民（住民）を捉えた表現です。

【成果】

- ・ 現在も第 3 期中期計画の途中段階にあたるため、具体的な成果や課題の検討は、個々の項目に沿って行っています。

I-1 「地域遺産」の再発見

【計画】

飯田市域には、豊かな自然環境に育まれた多岐にわたる歴史的遺産が数多く残っています。そして、これらの基盤には、かけがえのない歴史資料や文化が存在しています。

一方では、世代交代とともに多くの史料が滅失の危機にあり、これらの遺産を保存・整理し、活かし、飯田の魅力のひとつとして守っていかなければなりません。

このため、飯田・下伊那における地域の歴史や文化からなる資源遺産を再発見し、これらを地域の宝物として大切に守り、これに学び、活用する方向を更に進め、地域への愛着を育み、地域の魅力づくりに結びつけていく必要があります。

歴史研究所は、歴史的に近世の村々に淵源する人びとの生活や仕事の上で意味のある実体としての地域を「単位地域」として、また、単位地域を生きる市民を「地域市民」と捉え、史料調査、研究、市誌の編さんを実践してきました。

今後も、飯田市を構成する 20 からなる区域、及び必要に応じ関連する郡部の町村を単位地域とし、それぞれに豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを「地域歴史遺産」、「地域文化遺産」として再発見し、関係機関との連携を図りながら、それらの調査・研究や未来への継承などを地域市民の皆さんとともに取り組みます。

- 1 地域市民による調査研究が行われ、また、歴史研究所が単位地域プロジェクトとして取り組んできた座光寺・鼎などの地域をモデルに、新しい事例地を取り上げて、地域市民との恒常的な協力関係の下に地域遺産の再発見に向けた活動を支援していきます。
- 2 事例地に豊富に残る歴史資料や、歴史的建造物や町並み・集落など歴史的景観の現状を調査し、それらの保存と活用にむけた課題を地域の皆さんと一緒に考えます。
- 3 事例地における地域特性を明らかにするために基礎研究を重視し、その成果を当該の地域に多様な形で還元します。また、事例地に関する全体史や地域史料集の編さんなどにより、全市民が活用できる資産化に取り組みます。

これら「地域遺産」をめぐる取り組みは、地域市民との協力・協働なしに実施されることは不可能であり I-2「地域市民との連携強化」の取り組みと密接不可分です。

また、歴史研究所がこれまで実施してきた「単位地域プロジェクト」や歴史的建造物調査の成果の上にたって構想される点で、I-3「地域アーカイブズ事業の拠点化」と表裏の事業として位置づけます。

【成果】

- ・ 1 の成果として、座光寺地区における「歴史に学び地域を訪ねる会」の史料調査活動における研究指導および協働作業を行っています。
- ・ 2 については、これまで詳細な調査がなされてこなかった遠山谷を中心に歴史的な建造物に関する調査を行ってきました。また、近隣の町村の教育委員会からの依頼により、民家、学校、寺院の附属施設の調査を行っています。

参照：基本事業活動Ⅱ-2

- ・ 3については、主に地域史講座を開講することで地域に還元してきました。地域内の全体史をまとめた著書としては、『飯田・上飯田の歴史』下巻を発行しており、飯田・下伊那内の全体史に関する取組は、現在当初の計画から内容を変更して継続して取り組んでいます。

参照：基本事業活動Ⅱ-5及び別表4-5)

【課題】

歴史研究所がこれまで実施してきた「単位地域」を主軸とした基盤研究では、地域の特質を語るトピックを軸としてまとめられた「飯田・上飯田の歴史 上・下巻」のように結実した地域がある一方、各地域の史料の特質や蓄積量が異なるため、一事例地域における方法論が広範囲に適応できるとは限らないという課題も認識されています。一方で多次元的な視点から地域の全体史を見据え、これまでの研究成果を地域市民や社会全般に積極的に還元しようとする試みとして、歴史的建造物調査の成果の上にたち、段丘地形や河川と人々の暮らしに着目する単位地域を跨いだ「飯田・下伊那の歴史と景観」（仮題）の出版企画が計画されています。また、これら「地域遺産」をめぐる取組は、地域市民との協力・協働なしに実施されることは不可能であり、「地域市民との連携強化」と関連して検討しています。

I-2 地域市民との連携強化

【計画】

歴史研究所が設立以来重視してきた地域市民との協力・協働関係については、今まで十分にできてきたとは言えません。このため今期計画においては「地域遺産」再発見とも連携した地域市民との連携強化に取り組みます。とくに近年、各地区で活発に取り組まれている地域市民による史料調査や地域の学習・研究活動と協働し「地育力」を高める活動を行ないます。

- 1 史料調査や歴史的建造物・歴史的景観などの調査活動を地域市民と協働で実施し、また、各地域の歴史を学ぶ活動とも連携します。
- 2 歴史研究所や関連する調査グループ・研究者などによる調査・研究の成果については、出前講座・地域史講座・刊行物など多様な形で速やかに地域へと還元します。
- 3 市民研究員や研究助成制度を拡充・整備します。また、研究所が実施している基礎共同研究や課題研究・単位地域プロジェクトなどへ市民研究員や地域史研究者の参加を求め、地域市民との協働を図ります。
- 4 飯田・下伊那の各研究団体と協力関係を深め、また、新たに構築するよう努力します。
- 5 連携した研究活動や協働事業を進めるためには、地域の研究者をはじめとした市民の皆さんのご意見を聞きながら事業を進める必要があります。このための協議会の設置を検討します。

【成果】

- ・ 1の成果として、座光寺地区における「歴史に学び地域を訪ねる会」の史料調査活動における研究指導及び協働作業を行っています。
- ・ 2の成果としては、毎年行われる研究集会の内容を特集として取り上げ発行する年報の他、単位地域の全体史、飯田・下伊那の史料叢書、オーラルヒストリーによる飯田市一帯の概説書、若年者向けの著書があり、間接的に刊行を支援した著書もあります。

参照：基本事業活動Ⅱ-5及び別表5

- ・ 3の成果としては、長野原、座光寺、南信濃等における研究助成事業があり、特に長野原歴史研究会のようにテーマを変えながら積極的に研究を継続している団体の支援も行っています。

参照：別表6

- ・ 5については、平成26年度より飯田・下伊那郡内の有識者に依頼して飯田市歴史研究所協議会を設置し、年2回、研究所の諸活動に対する評価をいただくようになりました。

【課題】

歴史研究所は設立以来、地域市民との協力・協働関係を重視しており、第3期中期計画においても、これを重点目標の一つとして掲げてきました。しかし、実際に持続的に協働する関係を築けている地域は、歴史研究所が研究対象としている範囲からすれば、ごく僅かに限られています。地域に所在する歴史資料や、研究団体の事情は個々に異なり、研究所の限られたスタッフの中で、地域が持つ多様な要求に充分に対応できているとは言えないのが現状です。

I-3 地域アーカイブズ事業の拠点化

【計画】

地域アーカイブズ（歴史資料）は、地域遺産の中核の位置を占める、かけがえのない地域の宝物、地域資源です。また、地域アーカイブズは、地域市民の自己学習や研究において、また、研究者や学生などの調査研究にとっても基盤となる環境を提供するものであり「知のネットワーク」のひとつとしての機能を持っています。

地域アーカイブズは、私文書、公的機関の歴史文書、市役所など行政非現用文書、聞き取りによるオーラル史料などからなりますが、多くの史料が滅失の危機にある現在、これらの遺産を調査・収集・整理・保存・公開し、飯田の魅力のひとつとして大切に守っていかなければなりません。

第3期中期計画においては、「地域アーカイブズ事業の拠点」としての役割を果たせるような取り組みを行います。

当面は、これまで実施してきた概要調査、現状記録調査、採集調査、聞き取り、また、市役所非現用文書・旧役場文書の保存などの業務に継続的に取り組み、得られた史料や情報の保存・公開・活用に向けて体系的なシステムの構築と、文書保存や閲覧利用の充実をはかります。

【成果】

- ・ 旧役場文書については、鼎、下久堅、上郷、千代、川路などで整理作業が大幅に進展しました。
- ・ 地域アーカイブズを構成する歴史資料について、近世から現在にいたる諸文書群の所在把握および整理・調査を進展させるとともに、オーラルヒストリーをはじめとした非文字資料についても、その蓄積を進めることができました。またそうした調査活動の成果を史料集や書籍として刊行したほか、種々のワークショップや講座などによって、地域市民への調査成果の還元も進展しました。

参照：II-2 史料調査活動・II-4 学習活動・II-5 市誌編さんと出版事業)

(具体的な資料については、年報12号・13号の「基礎共同研究」の基盤研究を参照)

【課題】

地域アーカイブズについては、引き続き滅失の危機にある多くの史料を調査・収集・整理・保存・公開し、飯田の魅力を高める努力を継続しなければならない状況にあります。特に空き家対策特別措置法が施行された 2015 年度以降は、家屋の取り壊しに伴い、突然、資料の一時保存の依頼を受ける機会が増えており、緊急事態に対応する体勢の整備が求められています。こうした状況を鑑みれば、第 3 期中期計画で掲げられた「地域アーカイブズ事業の拠点」としての歴史研究所の機能は、より重要となり、研究所のアーカイブ機能の拡充のみならず、関連する美術博物館や図書館との連携した体勢づくりが求められています。

また整理の終了した旧役場文書等について、文書閲覧の可否を審査する仕組みやその規定が必要となり、個人情報や人権問題等についての配慮も必要となるため、そうした点を考慮した未来の地域市民の利活用に供するシステムの構築が求められます。

Ⅱ 基本的事業活動

Ⅱ-1 事業活動の柱

【計画】

I で述べた 3 つの重点目標への取り組みを軸に、以下の諸課題を歴史研究所の基本的な事業活動とし、これらに持続的に取り組みます。

- 1 地域の皆さんとも協働した調査研究活動を促進し、研究集会や、研究会・報告会などを定期的開催し、成果をいち早く公表することにより地域への還元を図ります。
- 2 歴研ゼミナールや飯田アカデミアを継続し、また、地域の歴史をわかりやすく講義する地域史講座を開催します。また、学校や公民館などへの出前講座により歴史を通じたふるさと意識の醸成を図ります。
- 3 単位地域論にたった地域の全体史をめざし、多面的で永続的な市誌編さんと出版事業を継続し、かけがえのない飯田の歴史を継承していきます。
- 4 諸活動の成果を公表し蓄積する媒体として、出版活動を安定的に展開します。

【成果】

基本的事業活動の全体については、4 つの課題に沿って概ね順調に進めてきました。

たとえば、歴史研究所の近現代史ゼミでは「胡桃澤盛日記」の翻刻に取り組みましたが、ゼミ受講生を中心に「胡桃澤盛日記」刊行会が設立され、平成 25 年 12 月に『胡桃澤盛日記』全 6 巻の出版が完了しました。また、その後、刊行会によって関係者への聞き取り調査が進められ、平成 27 年 8 月にその成果をまとめた『「胡桃澤盛日記」の周辺 胡桃澤盛日記・別巻』が出版されました。この日記と別巻の制作に歴史研究所は監修の立場でかわかり、客員研究員・調査研究員・市民研究員が翻刻・校正・注釈に携わりました。平成 27 年 9 月には刊行完結記念会『「胡桃澤盛日記」を語る』が開催され、顧問研究員の加藤陽子氏の基調講演などに多数の市民が耳を傾けました。平成 28 年度刊行の『飯田市歴史研究所年報』第 14 号には「胡桃澤盛日記」の研究活動に携わった方々に寄稿いただき、地域における戦争責任をテーマに多角的な問題提起が行われました。このように、長期間にわたる地域市民の研究活動と歴史研究所が多様な形で協働することを通して、個人で所蔵されてきた地域史料が評価され、地域社会や日本社会全体に対する意義ある情報発信を行うことができました。

また、座光寺では、地元の「歴史に学び地域をたずねる会」による史料調査・整理作業に歴史研究所も継続的に携わってきました。近世や近代の文書群、郷土史家の遺された文庫などの記録の作成や保存処置が地道に進められており、これに歴史研究所の研究員などが助言を行ったり、共に作業をしたりしてきました。

【課題】

- ・ 市民に限らず、市職員にも歴研の活動を認知してもらえるように広報やマスコミなどを通してさらにPRすることが求められます。
- ・ 各地で自主的な古文書講座や歴史を学習する諸活動が展開されています。地域との協働を拡げていくためには、そうした動向を注意深く把握しておき、すぐに直接的な活動にまで及ばなくとも、長期的な展望をもち可能な限りでつながりを深めていくことが必要です。

II-2 史料調査活動

【計画】

地域や関係機関と連携を図りながら史料調査を進めます。

研究所に寄託・寄贈された史料群や、市域や近接する郡部に量や規模も大きく残存する歴史資料について拠点型の現状記録調査を重視します。調査と共に基礎共同研究を実施し、調査の成果については報告書などですみやかに公表します。

歴史的建造物や歴史的町並みについて、これらを単位地域にとってかけがえのない地域遺産として重視し、飯田・下伊那全域を対象にした悉皆調査を継続します。その中で、単位地域ごとに、歴史的建造物や町並み景観、その他必要と思われる歴史遺産の保存、また、その有効活用の可能性を提示しながら、地域市民が主体となって、これらの地域遺産を維持・保存するような取り組みとして育つよう協力します。

また、市役所非現用文書も含む地域アーカイブズ事業と連携して進めます。

【成果】

研究所に個人などから寄託・寄贈された史料群の現状記録調査を継続的に進めてきました。また、市域の旧家などに残る史料群についても調査を行ってきました。新たに所在を把握できた史料群のみならず、かつて調査されたものについても、改めて調査を進めることができました。「清内路—歴史と文化」研究会（阿智村清内路）や顧問研究員ら有志（南信濃）などと共同した大規模な拠点型の現状記録調査も実施してきました。

歴史的建造物調査については、市街地や水田耕作地における本棟造の民家などの調査はすでに行われていたため、第3期ではこれまで未調査であった遠山地域を中心に調査を行いました。秋葉街道の要所であった梁ノ木番所、南信濃和田宿の旧家、上村下栗集落の斜面に建つ家々の調査結果は、文化庁助成事業による遠山谷ガイドブックや、それを含めて構成を検討している『飯田・下伊那の歴史と景観』（仮）に掲載し公開する予定です。また、市街地において、文化財的希少性をもたないものの、地域のシンボルとして親しまれている建物についても、ゼミナール活動の一環として調査記録を行ってきました。

毎年、保存期限が満了した市行政文書（市役所非現用文書）の中から歴史的に重要な文書を選別し、保存処置と目録作成作業を進めてきました。また、旧役場文書についても、南信濃・下久堅・上郷・千代・川路で整理を行ってきました。

【課題】

- ・ 旧支所文書は順次整理が進みつつありますが、旧村部の区有文書は手つかずのままです。飯田市外の村部の役場文書も廃棄される危険があり、対応が急がれます。またかつて歴史研究所で調査し、現在も地域や所蔵者のもとで保管されている史料群に対し、定期的に状態を確認することが求められます。さらに歴史研究所が所蔵する史料や調査を終えた史料の目録を、美術博物館・図書館・研究所で共有し、利用基準を作成して、市民がより使いやすくなるようにする必要があります。
- ・ 現在の体制（人員構成）のもとで行っている市役所非現用文書の毎年の分類収集作業は、緊急避難的な措置であり、本来であれば市として包括的な体勢づくりを進めるべきですが、研究所が一時的に代替する措置が継続しているのが現状です。また、未整理分を含めた市役所非現用文書の保存スペースに関しても、緊急に対策を検討する必要があります。

II-3 調査研究活動

【計画】

歴史研究所における諸活動の基盤として、基礎研究・基礎共同研究に持続的に取り組みます。これらの調査研究は以下のような区分の下で、年度ごとに作成する研究計画書に基づいて実施されてきましたが、調査の目的と研究の継続性を重視して、枠組みなどを見直します。

1 基礎研究（個人研究）

2 基礎共同研究（3部門）

- ・ 基盤調査
- ・ 課題研究
- ・ 単位地域プロジェクト

これらの調査研究活動を推進するため、次のような各種の研究会を開催し、また、それらの成果を主として『飯田市歴史研究所年報』に掲載します。

1 飯田市地域史研究集会

地域史研究事業の調査研究活動の成果をまとめ、問題を提起する場として、飯田市地域史研究集会を毎年開催します。テーマの選定にあたっては、関係機関および各研究員等からの提案を求め、また、地域市民からの要望に応えるよう努めます。

2 ラウンドテーブル

年間テーマや基礎共同研究などの成果の取りまとめ、国内外研究者、地域市民との研究交流の場とします。

3 定例研究会

研究活動の促進と研究成果の論議による研鑽を目的に、定期的な公開研究会として各部門の研究員や所外の研究者等による研究報告会を、年間7～8回開催します。

4 史料研究ノート

研究所内部の非公開の小規模勉強会を頻繁に開催し、研究の促進を図ります。

5 『飯田市歴史研究所年報』の編集・刊行

調査研究成果を発表する場として、「飯田市歴史研究所年報」を編集・刊行します。

【成果】

基礎研究（個人研究）と基礎共同研究（基盤調査・課題研究・単位地域プロジェクト）については、歴史研究所の諸活動の基盤として、別表1のように、毎年度、研究テーマをたて研究計画書を作成して進めてきました。全国的な動向を意識しつつ、飯田・下伊那の特質を浮き彫りにする研究成果が着実に生み出されています。

調査研究活動の推進のため、別表2のように、飯田市地域史研究集会、ワークショップ、定例研究会を開催しました。また、研究所内の勉強会として史料研究ノートを平成28年度から再開しました。毎月、研究員が交代で史料を提供し議論しています。

調査研究活動の成果を公表するために、別表2のように、『飯田市歴史研究所年報』を刊行しました。

【課題】

i 調査研究活動全般に関して

- ・ 研究員による研究活動が、ゼミや地域史講座をはじめとした教育普及事業や地域市民との協働の核になります。この点を第4期中期計画でも再確認する必要があります。

ii 基礎研究（個人研究）に関して

- ・ 研究事業は年度初めに各研究員が提出する研究計画書に従って研究費の配分が検討され、各人の研究活動が実施できるしくみとなっていますが、実際には外部の研究助成に頼らなければ、基礎的な調査活動も保証されない不安定な状況が見られます。また研究員の雇用形態が任期制であるため、引き継ぎに際して研究活動の停滞を招く状況も見られます。研究員の安定した研究環境を得られるように、研究所の運営面、研究費の運用面で総務担当者との綿密な協力体制の確立が必要です。また外部の研究助成をより獲得しやすくするために、研究領域が多分野にまたがる組織環境を生かした歴史研究所独自の研究戦略について、定例研究会などの場を利用して意見を交わし、検討することが求められます。

iii 基礎共同研究に関して

- ・ 「単位地域論にたった地域の全体史」という視角と、それを具体化する単位地域プロジェクトは、人びとの生活に根ざした地域史研究の核として継続され、飯田・上飯田のように具体的な成果をあげている地域もあります。また座光寺や長野原のように単位地域研究が地元の研究団体に対する支援体制を確立し、地元の研究者との研究協力体制を築くうえで有効に機能する場合もみられます。その一方で、今後の方向性が不明確な地域もあります。今後、単位地域担当者が不在の地域に対して研究員・調査研究員や地元で関心を持つ方等を含め担当地域を設けるなど、プロジェクトの再検討が必要です。

iv その他の活動に関して

- ・ 定例研究会はほぼ毎月、研究員、調査研究員、市民研究員の持ち回りで担当しており、分野にまたがる報告を聞き、視野を広げ、率直に議論を交わす場、地域史講座や論文執筆に向けた事前報告の場として有効に機能しています。今後は基礎共同研究グループ単位でも報告を行う機会としても活用されるべきでしょう。また市民研究員（課程）やそれを目指す人向けに、非公開で研究会、ゼミ等を行うことも想定すべきだと思われます。

II-4 学習活動

【計画】

地域市民の学びの機会を提供します。

1 地域市民との学びの協働

- ① 地域からの要望に応え、史料調査や古文書解読、地域研究などを協働して取り組みます。
- ② 地域の歴史を知り、ふるさとを大切にすることを育てるために、各地区公民館や高校、小中学校などへ出前講義・出前授業を実施します。
- ③ 体験学習を引き続き受け入れます。

2 様々な学びの機会を提供

ゼミナール、アカデミア、地域史講座の3つを基本枠とし、様々な学びの機会を提供します。

① ゼミナールとワークショップ

地域市民の学習の場として、できるだけ多くの講座を開設します。また、顧問研究員などによる夏休み期間中の集中ゼミの実施を検討します。

② 飯田アカデミア

年間3回程度開催します。参加者アンケートによる運営の改善を図ります。

③ 地域史講座

歴史研究所の刊行物などをテキストとしながら、単位地域の歴史をテーマとする講座を継続します。これらは、地域の公民館や学校などで実施する形を重視します。

【成果】

地域の歴史を学ぶ諸団体、市民大学講座、公民館の講座、伊那谷の自然と文化学びあい講座、美術博物館歴史文化講座、美博まつり、小学校や中学校での授業、飯田女子短期大学での講義など、さまざまな組織や団体に対し、その要望に応じて出前講義などを行いました。平成25年度は29回(31日)、26年度は23回(24日)、27年度は15日(16回)を数えました。また、中学生や高校生の職場体験を積極的に受け入れました。平成25年度は中学校7校・高校2校、平成26年度は中学校3校・高校1校、平成27年度は中学校4校、平成28年度は中学校2校の生徒が研究所の業務に取り組みました。さらに、地域市民の学習の場として、ゼミナールやワークショップを開設しました。たとえば、近現代史ゼミでは成果をまとめ刊行することも行いました。思想史ワークショップでは、参加者自らの提案で中江兆民や清沢列の著作を読み進め、時代背景や日本社会のあり様について議論するなど、参加者それぞれの問題意識を大切にした学習会を継続してきました。

専門研究者が最新の研究成果を地域市民に講義する飯田アカデミアを年に3回ほど開催してきました。また、単位地域の歴史をテーマとする地域史講座についても年数回実施してきました。地域史講座などでの報告の際には、学術用語はできるだけ避けてわかりやすい言葉を使い、地域の具体的な歴史像が地域市民へ伝わるよう努めてきました。

ゼミナール、飯田アカデミア、地域史講座には、分野ごとにリピーターを生み、逆にそのような方に研究集会に発言者として参加していただいたり、年報に寄稿していただく環境が形づくられつつあります。こうしたネットワークは、一方的な学習活動にとどまらず、地域史料の発掘や歴史研究所から地域社会への情報発信を行いやすくさせ、歴史研究所の活動の幅を広げる契機ともなっています。また同時に、リピーターの年齢層や地域の幅を広げる工夫も行ってきました。遠山谷を対象とした調査成果を地域に還元すべく開催した地域講座やワークショップを契機に、同地域からの参加者が加わったゼミナールもありました。

なお、出前講義、職場体験学習、ゼミナールとワークショップ、飯田アカデミア、地域史講座の詳細な内容に関しては別表4を参照してください。

【課題】

i 地域市民との学びの協働に関して

- ・ 研究所から出向いて講演する地域史講座のような関係性だけではなく、市民と共同で史料の調査研究を行い、定例研究会や地域史研究集会などで市民の研究成果を発表する場を設けることも検討すべきです。

ii ゼミナールやワークショップに関して

- ・ 参加者がほぼ固定化しつつあるゼミナールやワークショップもあります。継続的な関係を保ち市民研究員として活躍していただくなど、市民の学習支援体制を充実していく一方で、新たな参加者にも関心を持ってもらえるように、対象とするテーマや時間帯なども含めて再検討することが求められます。また近世や近代の史料の解読のように、読解のスキルを身に付けていただくだけではなく、文意を把握し議論する場を意識した企画も検討すべきです。

iii 飯田アカデミアに関して

- ・ 参加人数は企画を評価する指標として重要ですが、参加者数にこだわりすぎず、市民に学習の役立つ明確な目的を掲げて企画していくことが大事だと思われま

II-5 市誌編さんと出版事業

【計画】

自分たちの地域を知り地域を大切に思う心の醸成を目的に、歴史研究所の調査・研究事業の集約の場として位置づけ、地域史料集（『飯田下伊那地域史料叢書』）と単位地域史叙述を柱とする出版事業に取り組みます。

1 『飯田・下伊那史料叢書』

編さん史料は、いくつかの部類に区分した刊行を行います。また、調査研究の過程でわかってきた既存の刊行物で入手困難なもの、重要なものについて、再編さんや復刊も検討します。編さん事業計画の大枠は概ね次のとおりです。

- ① 基礎史料（「地域史料」に包摂できないもの）
古代史料を含めて近世・近現代を中心に刊行します。
- ② 地域史料
「地域遺産」の再発見を目的に地域史料集を刊行します。

2 地域史叙述

単位地域の全体史、テーマ史、飯田市一帯の概説書の3つに取り組みます。

- ① 単位地域の全体史
単位地域の歴史資料に関する「拠点型の現状記録調査」（地域史料の中で中心となる史料群について実施する規模の大きな現状記録調査）を基礎とし、「史料」で読む→「単位地域史料集」編さん→「単位地域」全体史叙述という段階で企画出版に取り組みます。
- ② テーマ史
主要なテーマを取り上げて親しみやすい歴史叙述をこころみます。
- ③ 飯田市一帯の概説書
飯田市史の調査・研究・学習のために基礎データを編集した研究・学習備要として、また、高校の副読本にもなるような飯田下伊那の歴史を分かりやすくコンパクトにまとめた冊子を企画します。

3 刊行支援

『下伊那のなかの満洲』や『胡桃澤盛日記』などのように、地域の団体などが企画する史料集編

【成果】

『飯田・下伊那史料叢書』の4冊目として『史料叢書 近世史料編2 勤向書上帳』を刊行しました。また、地域史叙述にかかわっては『飯田・上飯田の歴史』下巻をはじめとして6冊の書籍を出版しました(別表5参照)。なお、『飯田・上飯田の歴史』の刊行をうけて、書評会(定例研究会)やワークショップを開催しました(別表2参照)。また、平成28年5月に『戦争と養蚕の時代をかたる』の書評会を行いました。

当初計画されていた「飯田市一帯の概説書」については、単位地域ごとに研究の進捗状況や所在する史料の性質が異なるため、現時点での作成は困難として見送られましたが、それに代わり広範囲にわたる市史の概説書として、平成27年度研究集会の成果を踏まえて、「飯田・下伊那の歴史と景観」(仮)の出版を予定しています。特徴的な史跡や史料が残る地域の景観を取り上げることで、海外からの訪問者も含めた地域内外の広範囲の読者に、この地域の地理的・歴史的特性の全体像を伝えようとする試みであり、現在構成を検討中です。

刊行支援の面では、先述の『胡桃澤盛日記』に加え、満州移民を考える会編『下伊那から満州を考える』1・2の刊行にあたっては、調査研究員が考える会の一員として執筆に携わりました。

【課題】

- i 『飯田・下伊那史料叢書』基礎史料に関して
 - ・ 旧支所文書の管理体制を強化するために、「市域の旧支所文書目録一覧」の作成、満洲移民送出と引揚げに関する年表や写真集、さらには史料データなどをまとめた「満洲移民送出史料目録一覧」の作成が求められます。
- ii 地域史叙述のテーマ史に関して
 - ・ 時代的にその実態や技術の記憶の記録が困難となってきた養蚕・元結や水引・炭焼き・養鯉・染物など、伊那谷の産業史に関する著書の出版が喫緊の課題となっています。
- iii 地域史叙述の飯田市一帯の概説書に関して
 - ・ ジュニア・ライブラリなどの出版にあたっては、学校教育の現場でどのような本を求められているか把握したうえで出版計画を立てることも検討すべきです。

Ⅲ 歴史研究所の体制整備

Ⅲ-1 地域・地域市民との連携・協働

【計画】

- 1 地域遺産の再発見や全体史叙述にむけて、地域市民との連携・協働を進めます。
- 2 市域を対象とした研究活動を支援する、市民研究員制度を継続します。
- 3 歴史的建造物調査における市民コーディネーターのほか、古文書等の調査に関わる市民調査員の募集を通じて、歴史研究所の活動に参加しやすい環境を整備します。
- 4 地域の研究者や団体への研究助成制度を継続・発展させ、地域の研究活動を支援します。
- 5 調査活動を地域へお知らせしながら、基礎共同研究へ参加しやすい環境を整えます。
- 6 下伊那郡部町村における地域史・地域文化をめぐる事業活動とも連携し、協力関係を構築します。
- 7 研究所内の環境を改善・整備し、閲覧や利用に対するサービス向上を図ります。

【成果】

歴史研究所の活動の一翼を担う市民研究員制度（平成 28 年段階で 5 人）に関しては、研究活動のフォローが不十分という意見もありましたが、市民研究員にも研究計画書の提出を求め、定例研究会での報告を促すなど、体制の改善を図ってきました。また、市民研究員課程の方に対しても、各人に担当の研究員を付けて、論文執筆に向けての指導や支援を行ってきました。

歴史的建造物調査に関する依頼が近隣の町村より頻繁に寄せられており、建築分野を扱う機関として、下伊那の各自治体の教育委員会に専門性を認知され、活用されてきています。

別表 6 のとおり、長野原、座光寺、南信濃の地域研究団体や、考古学の研究団体へ助成を行い、その活動を支援してきました。

【課題】

- ・ 歴史研究所が地域の教育現場と連携を深め、地域の小学校・中学校・高校の教員からも調査や教材作成の相談を受け、支援できるように、必要な対応を検討し整備することが必要です。その一つの手法として、地域の学校や下伊那教育会の歴史部会などへ歴史研究所所蔵史料を PR することが考えられます。

Ⅲ-2 研究機関、研究団体との連携・協働

【計画】

内外の研究機関、研究団体、個人研究者、若手研究者、学生との交流・連携を図ります。

- 1 飯田・下伊那における歴史研究団体・郷土史の愛好グループとの連携関係を重視します。
- 2 地域史研究事業として教育委員会内関係機関と連携を図り、市域を中心とした調査研究事業の推進を図ります。
- 3 地域史研究を志す全国の自治体・研究機関・研究団体や研究者とのネットワーク構築を推進します。
- 4 大学とのネットワーク構築を図ります。
- 5 飯田・下伊那を調査・研究・学習の場とする大学など諸団体の事業活動に協力します。
- 6 歴史研究者や研究グループによる飯田・下伊那の調査研究活動と協働し、その成果を地域へ還元するとともに、継続的なネットワークの構築を図ります。

【成果】

顧問研究員の吉田ゆり子氏の科学研究補助金にかかる遠山和田地区の文書調査においては、地域内外に居住する研究者と協働した作業が実施されました。また、地域市民との交流を含むワークショップも開催できました。

阿智村清内路では、「清内路—歴史と文化」研究会による継続的な史料調査に協力し、調査成果の還元などを通して地元とのつながりを深めてきました。

【課題】

- ・ 歴史調査・研究の活動をしている各団体との情報交換の場を模索し、より一層積極的・意識的に交流することが望まれます。

Ⅲ-3 スタッフ

【計画】

- 1 国や民間などによる研究助成や協働による地域市民の支援を広く得て、歴史研究所の活動基盤を強化します。
- 2 地域や内外の研究者等の協力を得ながら、研究員が不在な分野を補強します。
- 3 アーカイブズ事業の拠点としての役割を果たすために、研究部内に「アーカイブズ担当」の常置を検討します。

【成果】

教育委員会主導による文化庁活動助成に加え、研究員が高い確率で科学研究補助金を取得できました。また、野村財団やクリタ水・環境科学振興財団といった民間機関からの活動・研究補助も受け、研究助成による基盤強化を積極的に進めてきました。

【課題】

- ・ 研究員の雇用体制（任期付）に由来する研究部体制の不安定さがあります。スタッフの交代によって担当分野の事業の停滞や、史料の取り扱いに混乱が生じたことがあり、一方で、総務担当者の交替により運営面での停滞を招くこともありました。そのような課題に対して恒久的な運営体勢のしくみづくりが求められます。
- ・ 外部から研究所の活動に携わっている顧問研究員や客員研究員については、研究所の事業への実質的な協力体制に合うように、一定期間ごとに見直すことが求められます。

Ⅲ-4 その他

【計画】

- 1 歴史研究所の調査・研究活動の基礎として、史料・文献などを軸とする情報管理を整備し研究目的の利用に公開するよう努めます。
- 2 歴史研究所が地域市民との連携・協働の場となるよう、引き続き図書館などへ研究成果の刊行物を配置し、所蔵資料リストの公開など広報活動の継続・強化を図ります。
- 3 史料保存スペースの確保とともに、上郷自治振興センターの耐震化に伴う施設の将来展望を検討します。

【成果】

- ・ 研究所HPをリニューアルし、情報がより見やすくなるように配慮しました。

【課題】

- ・ HP上の所蔵史料リスト公開に際しては、とりわけ各文書群が全点公開なのか、一部公開なのかがわかりにくいという問題があり、今後改善が求められます。